# 全般季節予報支援資料　1か月予報　2019年6月27日

予報期間：6月29日～7月28日　気象庁地球環境・海洋部

## 全般季節予報

**（1） 特に注意を要する事項**

－

**（2） 出現の可能性が最も大きい天候**

北・東・西日本では、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

**（3） 確率**

| 1か月 | 気温(%) | 1か月 | 降水量(%) | 日照時間(%) |
|---|---|---|---|---|
| | 低 並 高 | | 少 並 多 | 少 並 多 |
| 北日本 | **40**:30:30 | 北日本日本海側<br>北日本太平洋側 | 20:**40**:**40**<br>20:**40**:**40** | **40**:**40**:20<br>**50**:30:20 |
| 東日本 | 30:**40**:30 | 東日本日本海側<br>東日本太平洋側 | 20:30:**50**<br>20:30:**50** | **50**:30:20<br>**50**:30:20 |
| 西日本 | 30:**40**:30 | 西日本日本海側<br>西日本太平洋側 | 20:30:**50**<br>20:**40**:**40** | **50**:30:20<br>**40**:**40**:20 |
| 沖縄・奄美 | 20:30:**50** | 沖縄・奄美 | 30:**40**:30 | 30:**40**:30 |

| 気温 | 1週目(%) | 2週目(%) | 3～4週目(%) |
|---|---|---|---|
| | 低 並 高 | 低 並 高 | 低 並 高 |
| 北日本 | 30:**50**:20 | 30:**50**:20 | **40**:30:30 |
| 東日本 | 20:**40**:**40** | 30:**50**:20 | 30:**40**:30 |
| 西日本 | 20:**50**:30 | 30:**50**:20 | 30:**40**:30 |
| 沖縄・奄美 | 20:**40**:**40** | 20:**40**:**40** | 20:**40**:**40** |

## 最近１週間の天候経過

最近1週間（6/20～6/26）は、梅雨前線が沖縄・奄美付近に停滞することが多く、沖縄・奄美では曇りや雨の日が多かった。北日本から西日本にかけては、気圧の谷や低気圧と高気圧が交互に通過したため天気は数日の周期で変わった。

気温は、北・東・西日本で平年を上回り、沖縄・奄美では平年を下回った。降水量は、北日本と沖縄・奄美で平年を上回り、東・西日本で平年を下回った。日照時間は、北・東・西日本で平年を上回り、沖縄・奄美で平年を下回った。

## 予報資料の解釈

### ●１か月（6/29～7/26）

・ 熱帯の対流活動（MJO）は、実況で太平洋中部付近、1 週目に太平洋東部付近、2 週目はアフリカ付近、3 週目にインド洋、4 週目に太平洋中部に達する見込み。また、アジアモンスーン域（SAMOI）では、期間の前半を中心に活発。SAMOI で対流活発となっているのは、インドネシア付近の SST が低いことに対応して、この北西側の下層（850hPa 流線関数）で高気圧性循環偏差が形成され、その高気圧性循環偏差の北縁で対流が活発となっていることと対応している。チベット高気圧が次第に平年程度まで強まることと関係すると考えられる（200hPa 流線関数）。
・ 500hPa 高度は、日本付近は、北海道以北で負偏差、本州以南で正偏差。
・ 850hPa 気温は、本州以南では正偏差、北海道以北から華中付近にかけて負偏差。
・ 海面気圧は、沖縄・奄美付近と日本の北で正偏差。一方、北・東日本付近では負偏差。

### ●１週目（6/29～7/5）

・ 500hPa 高度は、ヨーロッパ付近からオホーツク海付近にかけての寒帯前線ジェットに対応する波列が明瞭。また亜熱帯ジェット付近の波列も見られ、日本付近は西谷。5880m の等高度線は九州の南まで北上し、沖縄・奄美付近はサブハイ圏内。
・ 850hPa気温は、北海道では負偏差。東北と西日本では平年からの隔たりが小さくほぼ平年並。東日本と沖縄・奄美付近は正偏差。
・ 海面気圧は、太平洋高気圧が沖縄・奄美付近に張り出す一方、本州付近は負偏差が見られ、この付近で前線の活動が活発。また、オホーツク海付近も正偏差で、オホーツク海高気圧が出現する見込み。
・ 以上から、北日本では、前線や湿った空気の影響で、平年に比べ曇りや雨の日が多い。東・西日本では、本州付近で前線の活動が活発となるため、平年に比べ曇りや雨の日が多い。沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われて、平年と同様に晴れの日が多い。気温は、北日本、西日本で平年並、東日本と沖縄・奄美で平年並か高い。

**➢想定される天候**

| |
|---|
| ・ 北・東・西日本では、前線や湿った空気の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多い。<br>・ 沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。 |

### ●２週目（7/6～7/12）

・ 500hPa 高度は、日本付近は正偏差。日本の東海上で負偏差が見られ、北日本を中心に東谷。5880m の等高度線は九州の南。
・ 850hPa 気温は、本州付近は平年からの隔たりが小さく、北日本の東と西日本の西で負偏差。
・ 海面気圧は、日本付近は全般に正偏差。日本の東海上に負偏差が見られる一方、オホーツク海付近は正偏差が明瞭で、オホーツク海高気圧の出現する可能性がある。前線は、500hPa 等高度線の 5880～5820ｍの間を参考に、日本海側から東日本付近で、西日本の西に寒気があることから、日本海側を中心に活動が活発と考える。
・ 以上から、北日本日本海側では、前線や湿った空気の影響を受ける日もあり、平年と同様に曇りや雨の日が多い。北日本太平洋側では、前線や湿った東よりの風の影響で平年に比べ、曇りや雨の日が多い。東日本と西日本日本海側では、前線の影響が強く平年に比べ曇りや雨の日が多い。西日本太平洋側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われて、平年と同様に晴れの日が多い。気温は、北・東・西日本で平年並、沖縄・奄美で平年並か高い。

➢**想定される天候**

- 北日本日本海側と西日本太平洋側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- 北日本太平洋側では、前線や湿った東よりの風の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多い。
- 東日本と西日本日本海側では、前線の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多い。
- 沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

**●３～４週目（7/13～7/26）**

- アジアモンスーン（SAMOI）の対流活動は平年程度。一方、フィリピン付近の対流活動は不活発。850hPa 流線関数ではフィリピン付近で高気圧性循環偏差。一方、北日本から日本の東では低気圧性循環偏差が見られる。
- 500hPa 高度は、北日本から東は負偏差で北日本で東谷傾向。
- 850hPa 気温は、北海道付近を中心に負偏差。
- 海面気圧は、北・東日本を中心に帯状に負偏差で、前線は平均的には日本海から東北地方付近と考えられる。
- 以上から、北・東日本では、前線の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多い。西日本と沖縄・奄美では平年と同様の天候。気温は、北日本から西日本ではほぼ平年並だが、北日本では北からの寒気の影響を考慮する。太平洋高気圧に覆われる沖縄・奄美では高温傾向を見込む。

➢**想定される天候**

- 北・東日本では、前線や湿った空気の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多い。
- 西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- 西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。
- 沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

気象庁ホームページ

〇季節予報 https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/001_00.html

〇向こう1か月の天候の見通し（1か月予報の解説） https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/pdf/pdf1/001.pdf

も参照してください。

---

この資料は、気象事業者等が気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。